

平成30年度いばらきネットモニター「食の安全」についてのアンケート

1 調査の概要

(1) 調査形態

調査期間：平成30年8月1日（水）～8月13日（月）まで

調査方法：インターネット（アンケート専用フォームへの入力）による回答

いばらきネットモニター数：332名

回収率56.6%（回収数188名）

回答者の属性（百分率表示は、小数点以下第二位を四捨五入しているため、個々の比率の合計は100%にならない場合がある）

		人数（人）	比率（%）	
全体（n）		188	100.0%	
地域別	県北	20	10.6%	
	県央	68	36.2%	
	鹿行	11	5.9%	
	県南	69	36.7%	
	県西	20	10.6%	
性別	男性	106	56.4%	
	女性	82	43.6%	
性・年齢別	男性	16～19歳	0	0.0%
		20～29歳	4	2.1%
		30～39歳	11	5.9%
		40～49歳	20	10.6%
		50～59歳	15	8.0%
		60～69歳	25	13.3%
		70歳以上	31	16.5%
	女性	16～19歳	0	0.0%
		20～29歳	3	1.6%
		30～39歳	16	8.5%
		40～49歳	19	10.1%
		50～59歳	30	16.0%
		60～69歳	11	5.9%
		70歳以上	3	1.6%
職業別	自営業	12	6.4%	
	会社員	52	27.7%	
	団体職員	8	4.3%	
	公務員	4	2.1%	
	主婦・主夫	47	25.0%	
	学生	2	1.1%	
	無職	44	23.4%	
	その他	19	10.1%	

(2) 調査目的

このアンケートは、食の安全・安心を揺るがす事件等の発生が後を絶たない中、より実効性のある施策の展開が必要なため、県民が抱く食の安全に対する感想及び県に期待する対応策を把握し、今後の県の施策への参考とするために実施するものです。

担当課：茨城県生活衛生課食の安全対策室

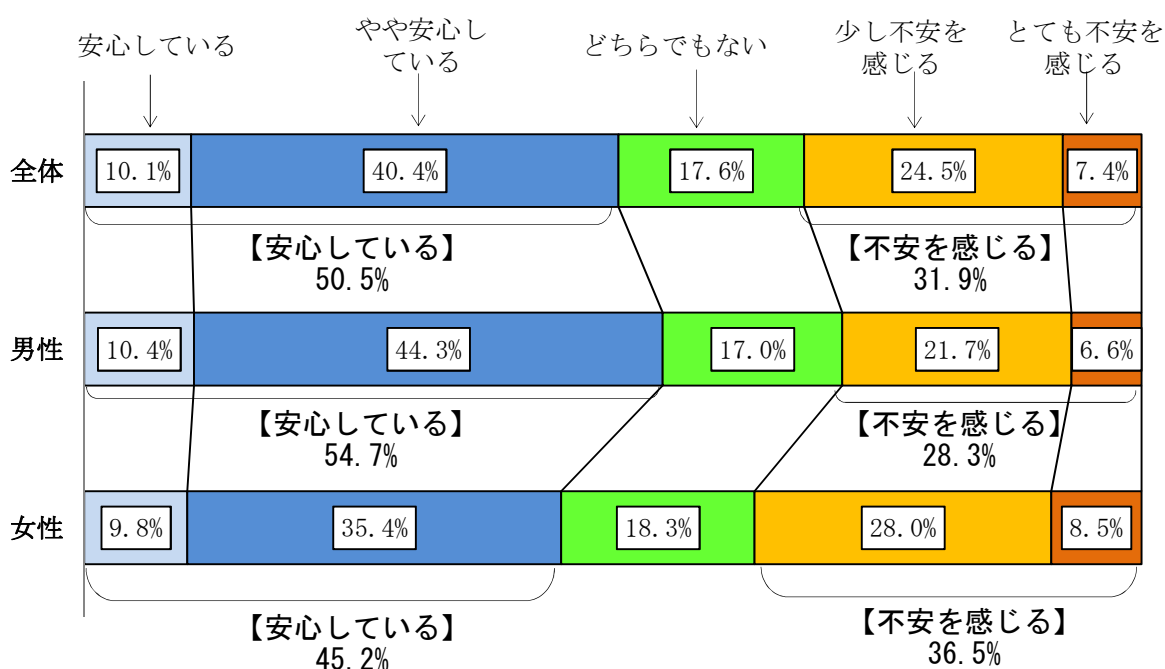
電 話：029-301-3961

E-mail: seiei4@pref.ibaraki.lg.jp

2 調査結果

【問1】あなたは、食の安全について、どのように感じていますか。次の中から1つだけ選んでください。

(n = 188)



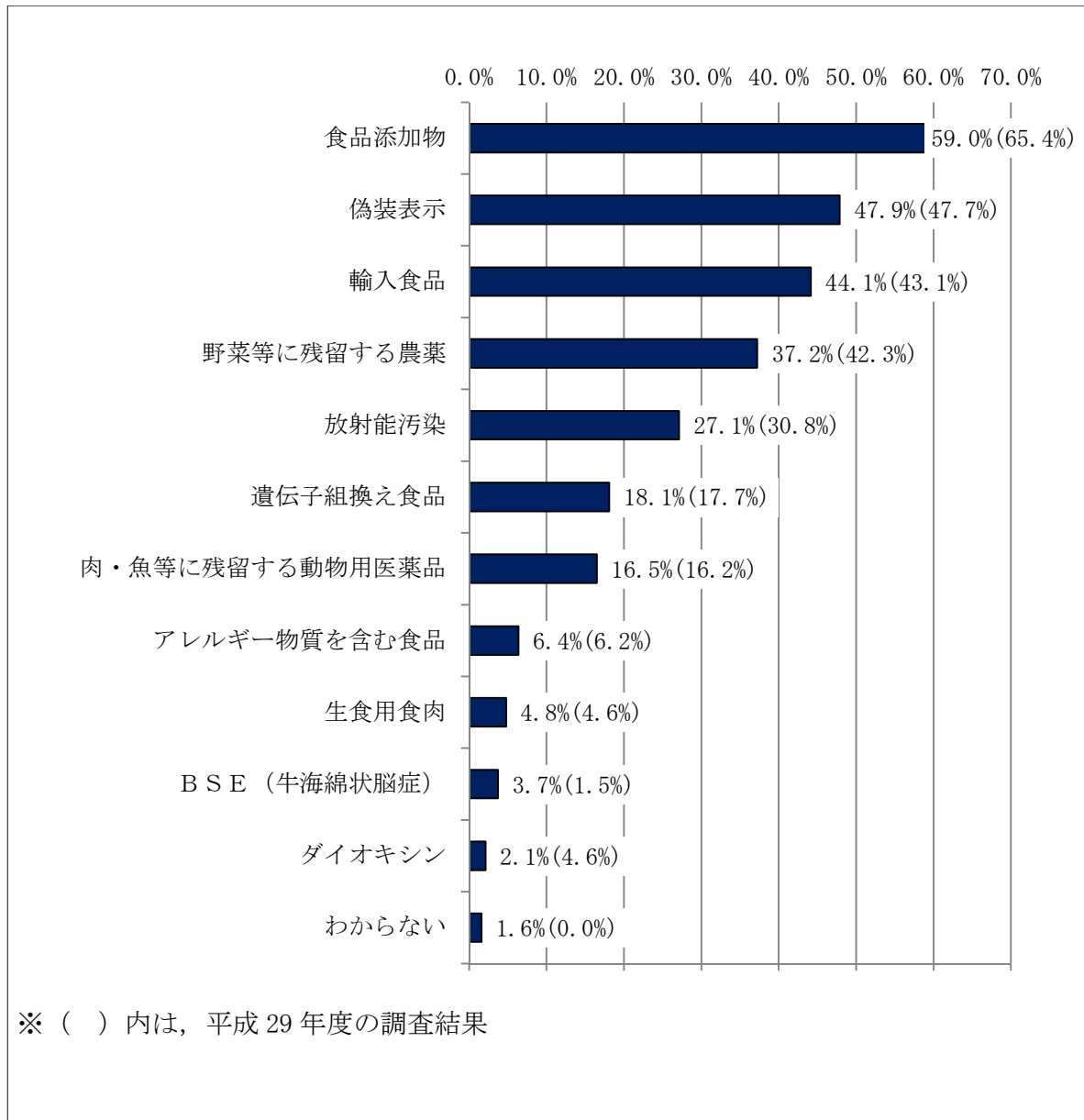
食の安全に関して、「安心している」(10.1%)と「やや安心している」(40.4%)を合わせた【安心している】は50.5%と約5割であった。

一方、「少し不安を感じる」(24.5%)と「とても不安を感じる」(7.4%)を合わせた【不安を感じる】は31.9%と3割強であった。なお、「どちらでもない」と回答したのは17.6%だった。

性別で比較すると、女性で【安心している】割合(45.2%)が、男性(54.7%)より約10ポイント低かった。

なお、今年度は、設問の変更を行い、選択肢に「どちらでもない」追加したため、単純な比較はできないが、【不安を感じる】割合は、昨年度の30.1%から50.5%と約20ポイント増加した。

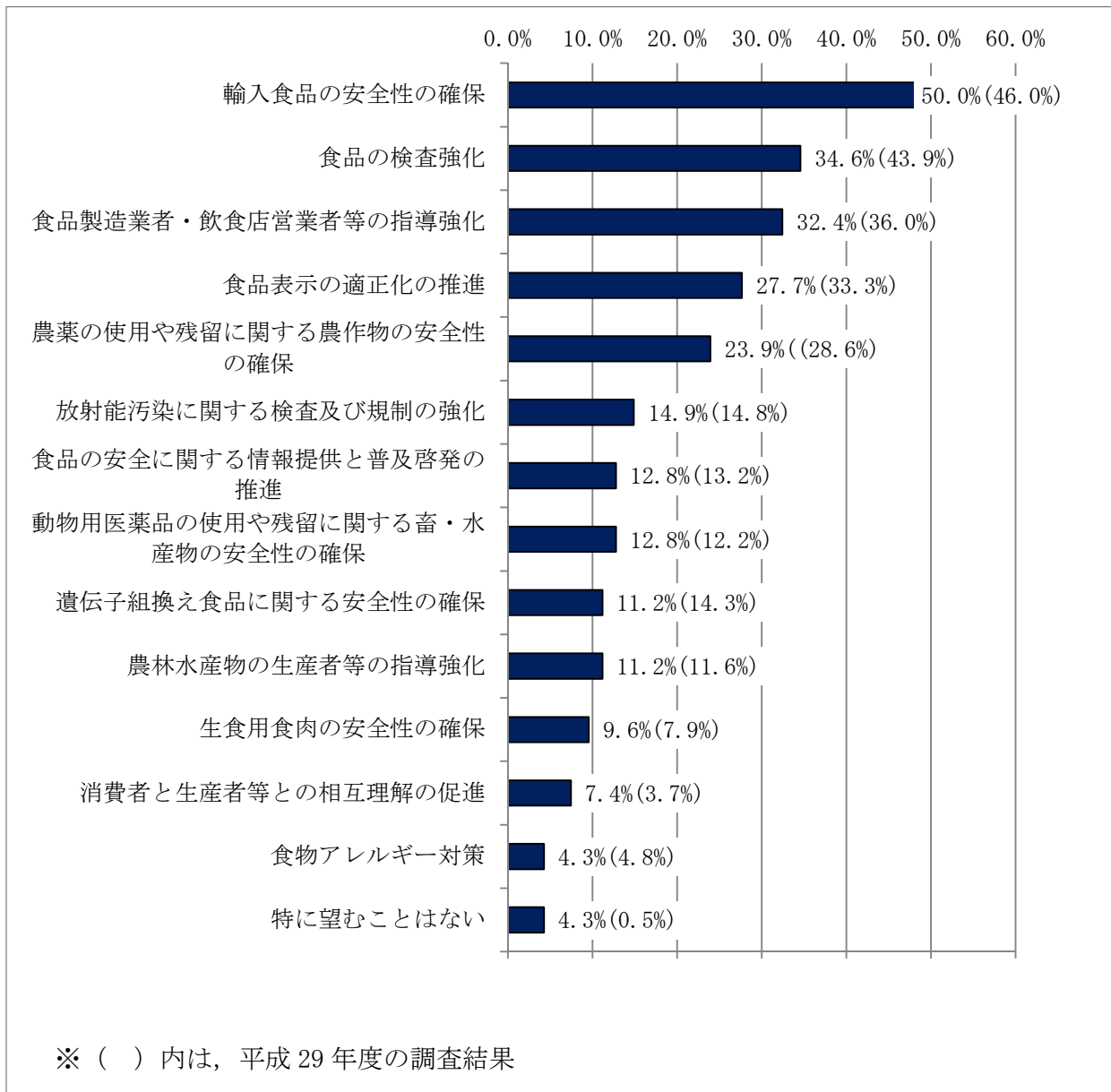
【問2】食の安全の観点から、不安を感じるものを次の中から、3つまで選んでください。
(n = 188)



食の安全に関して、関心のある項目を聞いたところ、「食品添加物」(59.0%)が最も高く、次いで偽装表示(47.9%)、輸入食品(44.1%)の順であった。

その他の内容としては、食中毒、F1食品、海洋プラスチック、環境ホルモンなどであった。

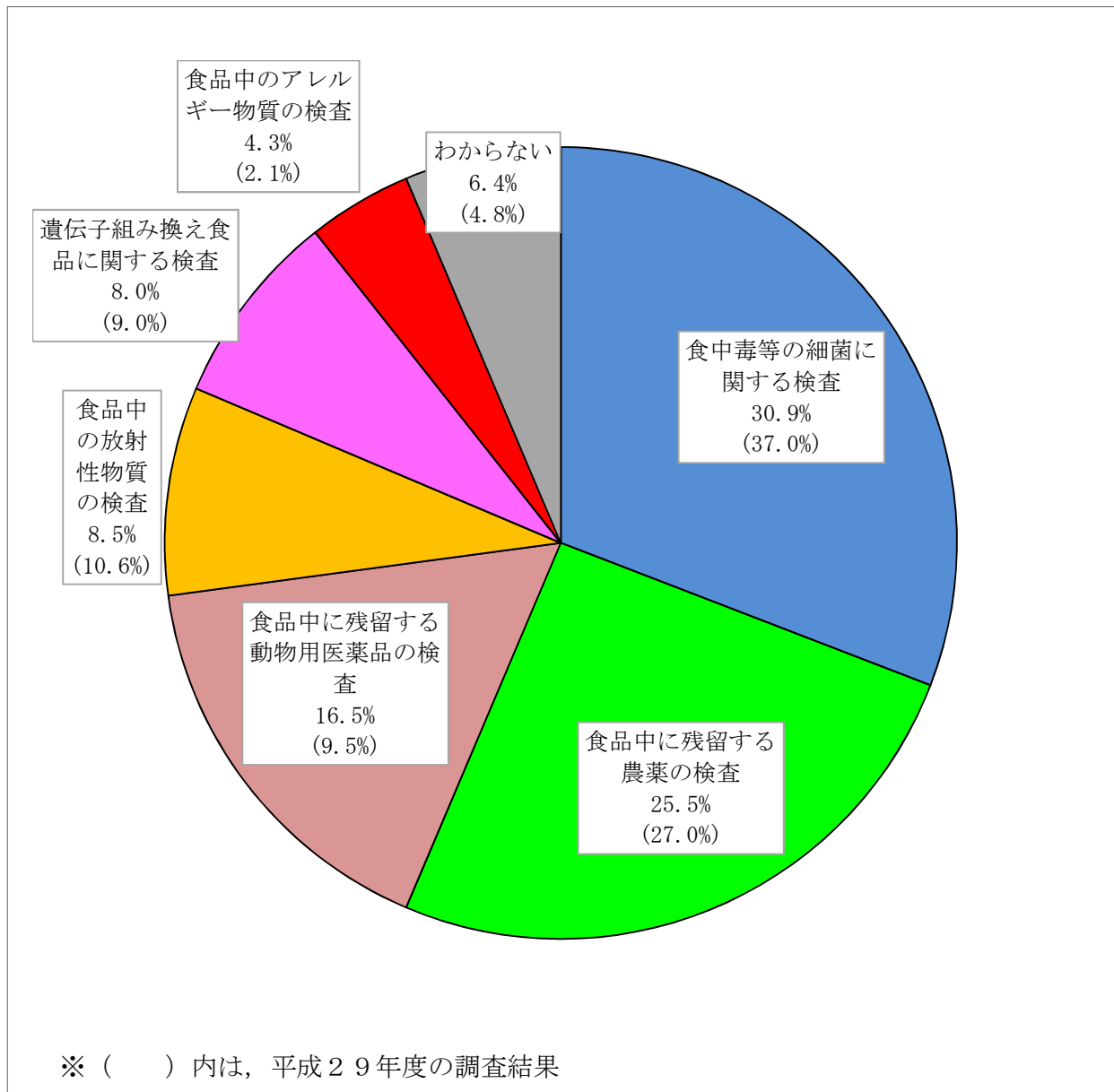
【問3】あなたは、県に対して、食の安全への対策として主にどのようなことを望みますか。
次の中から、3つまで選んでください。(n = 188)



県に望む食の安全対策としては、「輸入食品の安全性の確保」(50.0%)が最も高く、次いで「食品の検査強化」(34.6%)と「食品製造業者・飲食店業者等の指導強化」(32.4%)となった。前回調査(平成29年度)と比較して大きな増減はなかった。

その他の内容としては、「国と県の役割分担の明確化」、「食中毒対策」などの意見があった。

【問4】本県では、食品衛生監視指導計画に基づき、食品の抜き取り検査を年間1,300検体実施しております。あなたは、県に対して、食品に関するどのような検査項目を特に強化してほしいですか。(n=188)



県に望む食の安全対策の検査強化の項目としては、「食品中に残留する農薬の検査」(30.9%)が最も高く、次いで「食品中に残留する農薬の検査」(25.5%)と「食品中に残留する動物用医薬品の検査」(16.5%)となった。

昨年度の結果と比較すると、「食中毒等の細菌に関する検査」が約6ポイント減少、食品中に残留する動物用医薬品の検査」が約7ポイント増加したが、順位を含め大きな変化はなかった。

なお、選択肢にその他を追加する要望があった。